

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会  
会長 櫻井秀弥

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、旧年中は当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の経済情勢は、昨年早々からのアベノミクスの展開により、景気は緩やかに回復してきています。住宅着工戸数は、本年4月からの消費税増税の駆け込み需要や金利の先高感によって、年率換算値では100万戸に達する状況で推移していますが、今後の新消費税率導入が景気に及ぼす影響については、不確実性もあり、我が国経済の先行きには予断を許さない状況になっています。

このような中で、今年のプレカット加工業の業況をみますと、リーマンショック以来の住宅需要の伸びを背景に、プレカット工場の稼働率は年間を通じて高水準で推移しましたが、一方においては、国産材を中心に資材の供給環境はタイトになるなど、経済状況の変動に大きく影響を受けつつ、繁忙を極めた一年でありました。

一方、国産材資源が充実しつつある中であって、関係省庁においては、木材利用ポイント事業の創設、公共建築物等における大型木造建築物の普及促進、地域型住宅ブランド化事業の推進等、木材利用促進を図るための各般の施策が実施されました。

特に、新しい試みである木材利用ポイント事業においては、プレカット工場は、木材供給事業者として、主要構造部材の供給に大きく係わることから、当協会では、合法木材供給事業者である会員工場を対象に認証のためのデータ整備等を行い、新制度の円滑なスタートに協力いたしました。

木造住宅の性能、品質に関しては、長期優良住宅の普及等により、プレカット工場における軸組構法住宅の構造性能への関与が求められており、プレカット加工図を作成するCADオペレーターの顧客対応能力向上も重要になっています。当協会においては、プレカット加工業に対する技術支援の取り組みとしてプレカットCAD技術者研修を昨年より実施しています。本年においても引き続き実施し、プレカットCAD技術者認定の実施に発展的拡大を図りたいと考えています。また、これと併せて、全国住宅プレカット部材共済会によるプレカット部材瑕疵保証事業の充実強化を図る所存であります。

当協会は、昭和60年の創立以来、品質の確かなプレカット部材の生産、供給を目的として会員工場のプレカット加工技術の向上を図るため活動を行ってきました。CADオペレーターの技術的インセンティブを高めるとともに、品質の担保されたプレカット部材の供給により安全・安心な住環境の創造で顧客満足の得られるような木造住宅の提供にお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になりますよう、そして皆様方にとって素晴らしい一年となりますように祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



# 25年度第1期CAD技術者研修(東京)実施される

— 全国各地から54名参加 —

平成25年度第1期プレカットCAD技術者研修(2級コース、3級コース)は、平成25年12月12、13日に、東京都江東区新木場の木材会館において、受講者54名の参加のもとに開催されました。

研修に先立ち、主催者から、「軸組構法住宅の9割はプレカット加工された構造部材が使用されており、消費者ニーズに応えた安全・安心の家づくりのためには、プレカット加工の基になるプレカット加工図の適否が重要な要素になる。そのため、2日間の研修を通じて、CADオペレーターとして重要な最新の情報を身につけていただき、今後の一層のご活躍を期待する。」旨の挨拶がありました。

研修は、プレカット工場の中堅技術者を対象としていることから、カリキュラムの内容は、①プレカット加工業の現状とCADオペレーターの役割、②木材知識及び木質構造の基礎、③プレカット伏図の生成とチェックポイント、④CADオペレーターの応用力と瑕疵への対応について、ものづくり大学教授 小野泰氏、村上木構造デザイン室 村上淳史氏、ARU田口設計工房 田口隆一氏、(株)オブコード研究所 所長 野辺公一氏の4名の講師により、講義、演習を行いました。

講義終了後、受講者に研修内容をより一層理解していただくため考査を行い、2日間の研修を締めくくりました。

今後、平成25年度第2期プレカットCAD技術者研修(2級、3級コース)は、2月24、25日に名古屋会場(名古屋木材会館)、2月26、27日に大阪会場(大阪木材会館)で開催します(現在、受講者を募集しています)。また、1級コースは、3月3、4日東京会場(日林協会館)で開催する予定になっています。



## 街づくりへ木材利用を拡大しよう

— 第48回全国木材産業振興大会で決議 —

第48回全国木材産業振興大会は、平成25年11月21日にさいたま市で「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興～街づくりへ木材利用を拡大しよう～」をメインテーマにして開催されました。

大会の第一部では、まず、坂東正一郎埼玉県木材協会会長の歓迎の挨拶、大会会長である吉条良明全木連会長の挨拶があり、農林水産大臣(代理)、国土交通大臣(代理)、埼玉県知事、さいたま市長(代理)から祝辞がありました。

大会議事においては、「地域経済の維持振興に不可欠な新たな大型経済対策の早期実現、中小企業対策の充実を図ろう」等の6項目の大会宣言が、また、「新たな消費税率導入に伴う景気反動に対応する大型経済対策の早期実現」等の木材利用拡大に関する特別決議が提案され、満場一致で決議されました。

引き続き、第二部においては、退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功労者の表彰が行われ、受賞者に対し長年に亘る功績が賞賛されました。

また、全木連創立60周年記念シンポジウムとして「木材を使う街づくり」と題するパネルディスカッションが開催され、公益社団法人日本建築士会連合会会長 三井所清典氏の基調講演の後、三井所氏がコーディネーターとなって、工学院大学教授 後藤治氏、山辺構造設計事務所代表 山辺豊彦氏、(株)竹中工務店 先進構造エンジニアリング本部課長 小林道和氏の3名がパネリストとなり、歴史的建造物・町並の保存と森林・林業、地域材活用と担い手育成、都市部での大規模木造建築の実現と今後の課題等について活発な議論が行われました。

# 協会会員工場基礎調査結果について(第3回)

## — 年間総生産量・AQ製品生産量調べ —

調査対象年月：平成24年12月  
調査対象工場数：41工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合計
総生産量 (単位：100坪)	6、11、69、 74、81、90、 90、96	115、119、 129、130、 143、146、 162、170、 172、180	220、220、 259、290	300、307、 330、363、 370、380、 390、427、 430、450、 469、474	526、548、 818、1,200、 1,218、 1,300、 4,647	17,973
平均	71.4	146.6	247.3	390.8	1,465.3	438.4
(前年平均)	(71.7)	(135.5)	(260.8)	(385.3)	(1,216.8)	(432.6)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	0、0、0、 0、0、30、 56、90	0、0、0、 0、0、0、 0、1、14、 132	0、0、0、 52	0、0、0、 0、0、0、 0、0、0、 195、330、 360、	0、0、0、 0、0、3、 36	1,798
平均	22.0	14.7	13.0	73.8	5.6	31.7
(前年平均)	(11.1)	(11.9)	(61.0)	(74.3)	(50.4)	(41.8)
AQ製品生産比率	30.8%	10.0%	5.3%	18.9%	0.4%	7.2%
(前年AQ製品 生産比率)	(15.3%)	(8.8%)	(23.4%)	(19.3%)	(4.1%)	(9.7%)

### ◇簡単なコメント

- (1) 会員41工場を対象とした調査によると、平成24年の1工場当たり年間平均生産量は、43,840坪で、1棟当たり40坪換算すると1,096棟に相当する。前年の平均生産量は、43,360坪だったので微増といえる。一方、これを階層別にみると、10,000坪～20,000坪の階層では8%の増加、また、50,000坪以上の階層では20%の増加になっているものの、それ以外の階層では、微増若しくは減少の状況であった。生産量の主体は、50,000坪以上の階層にシフトしつつあることがうかがわれる。
- (2) 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は7.2%で前年に比べて2.5ポイント低下した。これは、AQ製品の生産量は20,000坪未満の階層においては前年に比べて増加傾向であったが、20,000坪以上の階層においては減少しており、特に、50,000坪以上の階層では生産比率が0.4%と大幅に低下したことが影響しているものとみられる。近年、AQ製品の生産量は減少傾向にあるが、生産規模が中堅以下の工場においては最近の長期優良住宅に代表される品質の高い住宅への消費者需要などによる前年並みの根強い需要を背景として、AQ製品が比較的活発に生産されたものと推定される。

# プレカット業況調査(平成25年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ(回答率:58%)

設 問	回答率(%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	66	25	9	+ 57	+ 57
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	13	34	53	- 40	+ 15
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,270円(対前回調査-10円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	9	91	0	+ 9	+ 11
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	6	85	9	- 3	- 3
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	3	41	56	- 53	+ 11
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	19	53	28	- 9	- 9
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	41	46	13	+ 28	+ 11
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	47	50	- 47	- 12

\* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\* 前回調査:平成25年8月

## ◇簡単なコメント

11月の受注額はプラスで推移したが、資材の入手環境のタイト感は一層強まり、各工場においては国産材を中心として資材確保に苦慮されていることがうかがわれる。3ヶ月後においては、資材の入手状況については、現状の厳しさは続くと思われるが、一方、受注減による収益の悪化が懸念される。

1. 受注額のDIは+57で前回調査時(平成25年8月期)と比べて変化がなく、活発な受注が続いたことが裏付けられる。しかしながら、3ヶ月後の予測値は-40で悪化との予測が主体になった。
2. 3ヶ月前と比較した製品加工単価のDIは+9で、前回に引き続きプラスになった。平均総加工単価は6,270円で3か月前に比べて10円低下したが、横ばいといえるであろう。また、3ヶ月後の製品加工単価のDIは-3で、現状とは大きな変化は見られないと予測される。
3. 資材の入手状況は変わらずとする回答は41%あったものの、DIを見ると-53と大きく悪化し、3ヶ月前の予測よりも大きく後退した。また、3ヶ月後においても-9と予測されており、厳しい入手環境は続くものとみられる。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは+28になり、厳しい資材の入手環境の中ではあるが、受注額の増加が反映しているとみられる。3ヶ月後の予測は、-47と大きく後退するとの予測であり、冬の不需要期に当たることと駆け込み需要に限界と陰りが見え始めるのではないかと推測されている。